

「学校を核とした県内 1000 か所ミニ集会」

令和元年10月24日（木）本校会場として、「学校を核とした県内 1000 か所ミニ集会」を開催しました。

今年度は、近年課題となっている防災・防犯に関してテーマに掲げ、市役所や警察署の行政からの話題提供とグループ別意見交換を行いました。台風15号と19号による被害があったこともあり、参加者の関心もかなり高まっていました。

開かれた学校づくり委員会委員や保護者に加え、地域のボランティア団体や自治会、放課後デイサービス等福祉関係の方々の参加もあり、学校・家庭・地域それぞれの立場からの意見交換や情報共有の機会となりました。

学校・家庭・地域と連携した防災安全教育

【テーマ】

～子供たちの安全を守るために、それぞれの立場でできること～

第1部 話題提供

1 「災害時における千葉市の避難体制等」

千葉市総務局防災対策課対策実施班 主査 大久保智之 氏

データを踏まえた台風15号での千葉市の対応、自助・共助・公助の点での具体的な取組等について、お話をいただきました。

2 「防犯に関する千葉市緑区の取組等」

千葉南警察署生活安全課 課長 白井則行 氏

千葉市緑区の防犯に関して、犯罪の件数や場所の実際や具体的な取組内容等を踏まえてお話をいただきました。

第2部 グループ別の意見交換と発表

参加者アンケートから（一部紹介）

- ・防災や防犯について改めて考える機会になった。
- ・タイミングよい話題で非常に学ぶことが多かった。
- ・地域で連携する（共助）、自助の必要性を感じた。
- ・犯罪の件数や場所を知ること、気を付けることや対応がわかった。
- ・いろいろな立場の意見を聞き、対策のヒントを得た。
- ・防災や防犯についても、普段の地域連携や情報やりとりが大切だと痛感した。
- ・情報交換の機会は、何かの時身近での助け合いに役立つ。